

平成**29**年度

教育研究会資料

■ 研究主題 ■

子どもの社会的・職業的自立を指向し
育ちと学びのプロセスを大切にする授業作り
～ 4年間のキャリア教育研究を総括して～

ごあいさつ

本校では、平成 25 年度からキャリア発達支援の視点を取り入れ研究を進めてまいりました。平成 25 年度は「キャリア教育の視点からの教育課程を小中高 3 学部の学習内容の一貫性、系統性、関連性の側面から再考する」というテーマで文部科学省の「特別支援教育に関する実践研究充実事業」の委託を受けました。平成 26 年度から昨年度までの 3 年間は「キャリア発達支援の視点による、小中高 12 年間を見通した学習活動の充実改善」というテーマで、文部科学省のキャリア教育・就労支援等の充実事業の委託を受けて研究を進めてまいりました。

そのなかで児童生徒が学習や体験を確かな「経験」につなげていけるよう、一人一人の内面を丁寧に読み取りながらキャリア発達の視点をもって、授業作りのプロセスや児童生徒の変容のプロセスを捉え直しながら実践研究を行ってきました。

今年度は、前年度までの 4 年間の学校研究で得られた成果をふまえたうえで、あらためて「子どもの社会的・職業的自立を指向し、育ちと学びのプロセスを大切にする授業作り」を考えて実践してきました。

この間の研究内容や成果と課題の詳細は、本教育研究会資料や前年度までの研究紀要に記載していますが、どの学部にも共通して言えることは、教師は児童生徒一人一人の内面を見取るために、児童生徒をよく観察したり話しかけたり問いかけたりすることが多くなったことです。それによって児童生徒から教師への働きかけも多くなりました。また、それらをもとにした教師間の対話が増え、学部内で児童生徒の状況を共有し、多面的に推察しながら学習のねらいやそのための支援（教材教具、問いかけなど）を検討し、試行錯誤を重ねて授業作りを行うようになりました。これは成果の一つと言えます。

今年度の研究は終わりましたが、児童生徒一人一人のキャリア発達を支援する教育活動と、教育課程や授業一つ一つのもつ意味や意義を問い直し、見直し、改善・充実を図る私たちの営みは続いていきます。課題も多く残っております。

教育研究会にご参加の皆様ならびに本教育研究会資料をご高覧の皆様には、忌憚のないご意見やご教示をいただきましたら幸いに存じます。

最後になりましたが、本校の研究にご指導・ご助言をいただきました多くの皆様に、心よりお礼申し上げます。

校長 綿引 伴子